

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 12 月 28 日作成)

小委員会名	応答制御と減衰小委員会	主 査 名：新宮清志 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：和田 章 主 査 名：大森博司
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2010 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>設置目的： シェル・空間構造物の減衰機構・減衰性能を明らかにし、さらに積極的に免震・制振等により応答制御を行い、構造物の地震・台風被害を低減することが重要と考えられる。そこで、本小委員会はシェル・空間構造物の応答制御および減衰の調査研究を行う事を目的としている。</p> <p>各年度活動計画： 初年度： ・主として地震に対してのシェル・空間構造物の免震・制振・減衰に関する調査研究を行う。なお、減衰に関しては、比較的微小振幅の振動に対するものを対象とする。 ・書籍「シェル・空間構造物の応答制御と減衰」(仮題)の原稿執筆を開始する。 2年度： ・出版物の刊行を行う。 ・シンポジウム、講習会、セミナー等のいずれかを実施する。 ・比較的大振幅の振動に関する減衰の調査研究を行う。 ・応答制御が施されたシェル・空間構造物の減衰に関する調査研究を行う。 3年度： ・主として風に対してのシェル・空間構造物の制振・減衰に関する調査研究を行う。 ・比較的大振幅の振動に関する減衰の調査研究を行う。 ・応答制御が施されたシェル・空間構造物の減衰に関する調査研究を行う。 4年度： ・大会 PD、シンポジウム、セミナー等のいずれかを実施する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査 新宮清志(日本大学) 幹事 谷口与史也(大阪市立大学) 幹事 立道郁生(前田建設工業) 委員 青木義男(日本大学) 入江寿弘(日本大学) 大木洋司(東京工業大学) 瀧 諭(清水建設) 竹内 徹(東京工業大学) 中澤祥二(豊橋技術科学大学) 西田明美(日本原子力研究開発機構) 福住忠裕(神戸大学) 松野浩一(東洋大学) 水谷太郎(大成建設) 山田耕司(豊田工業高等専門学校)</p> <p style="text-align: right;">以上、14名</p>	

<p>設置 WG (WG名:目的)</p>	<p>WG名: 自然現象・形態の空間構造への応用調査 WG</p> <p>目的: 直上小委員会の目的は、減衰機構・性能を明らかにする為の基礎的研究、免震や制振装置を施したシェル・空間構造の動的挙動やその効果を明らかにすることである。そこで本 WG では、自然形態と外力との関係を考察し、未だ建築構造に取り入れられていない着想を得、シェル・空間構造の応答制御の可能性を広げることが目的としている。</p>	
<p>2006 年度予算</p>	<p>80,000 円</p>	<p>ホームページ公開の有無:なし 委員会 HP アドレス:</p>

<p>項 目</p>	<p>自己評価</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>5 回 (年度内計画を含む)</p>
<p>刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)</p>	
<p>講習会</p>	
<p>催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>書籍「シェル・空間構造物の応答制御と減衰」(仮題)の執筆は完了し、小委員会委員(複数)の査読とそれに伴う修正を終えた。現在、運営委員会委員(2名)による査読が行われているところである。構造本委員会の査読者が過日(2006.12.22)の本委員会で決まったようである。 したがって、達成度はほぼ満点と考えている。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>問題点:なし 課題:ホームページが未完成であるので、次年度は公開できるようにしたいと考えている。</p>